

第36回日本分子生物学会・年会企画 アンケート 集計結果

ポジション別：企業研究者

回答者数：43名

ポジションと研究分野に関する設問

回答者数: 43名

質問1. あなたのポジションは？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 学部学生	0	0.0%						
回答2 大学院生	0	0.0%						
回答3 ポスドク	0	0.0%						
回答4 大学・研究所等の研究者 (助教、助手)	0	0.0%						
回答5 大学・研究所等の研究者 (講師、准教授)	0	0.0%						
回答6 大学・研究所等の研究者 (教授)	0	0.0%						
回答7 企業研究者	43	100.0%						
回答8 その他	0	0.0%						
合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問2. 専門とされている研究分野についてお聞きます。＜複数回答可＞

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 生物系	34	53.1%						
回答2 農学系	5	7.8%						
回答3 医歯薬系	13	20.3%						
回答4 理工系	10	15.6%						
回答5 情報系	2	3.1%						
回答6 その他	0	0.0%						
合計	64							

※割合は合計を母数にして算出しています

第1部 研究倫理と不正についての一般的な設問

回答者数：43名

質問3. ライフサイエンスにおいて、研究不正は大きな問題だと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	そう思う	36	83.7%						
回答2	ある程度そう思う	6	14.0%						
回答3	あまりそう思わない	1	2.3%						
回答4	そう思わない	0	0.0%						
回答5	わからない	0	0.0%						
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問4. ライフサイエンスにおいて、研究不正は極めて稀なケースだと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	そう思う	3	7.0%						
回答2	ある程度そう思う	17	39.5%						
回答3	あまりそう思わない	13	30.2%						
回答4	そう思わない	7	16.3%						
回答5	わからない	3	7.0%						
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問5. 研究不正を目撃などしたことがありますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	所属する研究室内で実際に目撃、経験したことがある	2	4.7%						
回答2	所属する研究室内で噂があった	2	4.7%						
回答3	近傍の研究室内からそのような噂を聞いた	10	23.3%						
回答4	具体的には聞いたことがない	29	67.4%						
回答5	回答なし	0	0.0%						
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問6. 研究不正は日本のライフサイエンスの現状や将来の進展に悪影響があると考えますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	そう思う	32	74.4%						
回答2	おおむねそう思う	8	18.6%						
回答3	あまりそう思わない	1	2.3%						
回答4	そう思わない	2	4.7%						
回答5	わからない	0	0.0%						
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問7. 研究不正に対しては日本の現行システムは十分に対応できると思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	十分対応できる	0	0.0%						
回答2	ある程度対応できる	4	9.3%	■					
回答3	あまり対応できない	20	46.5%	■					
回答4	対応できない	12	27.9%	■					
回答5	わからない	7	16.3%	■					
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問8. 研究不正に対する当該研究機関による調査、報告は適当であると思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	適当である	3	7.0%	■					
回答2	おおむね適当である	10	23.3%	■					
回答3	あまり適当ではない	16	37.2%	■					
回答4	適当ではない	11	25.6%	■					
回答5	わからない	3	7.0%	■					
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問9. 研究不正の調査はどのような機関が対応すればいいと考えますか？ <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	当該機関(大学、研究所など)	8	13.1%	■					
回答2	研究費の出資機関 (文部科学省など)	12	19.7%	■					
回答3	第三者の中立機関	36	59.0%	■					
回答4	その他	5	8.2%	■					
回答5	わからない	0	0.0%						
	合計	61							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	そう思う	12	27.9%	■					
回答2	おおむねそう思う	20	46.5%	■					
回答3	あまりそう思わない	6	14.0%	■					
回答4	そう思わない	2	4.7%	■					
回答5	わからない	3	7.0%	■					
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	そう思う	5	11.6%						
回答2	ある程度そう思う	12	27.9%						
回答3	あまりそう思わない	11	25.6%						
回答4	そう思わない	9	20.9%						
回答5	わからない	6	14.0%						
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	十分だった	4	9.3%						
回答2	おおむね十分だった	8	18.6%						
回答3	あまり十分でなかった	9	20.9%						
回答4	十分でなかった	12	27.9%						
回答5	わからない	10	23.3%						
	合計	43							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	個人の問題	30	46.9%						
回答2	構造の問題	31	48.4%						
回答3	その他	3	4.7%						
	合計	64							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	教育	29	50.0%						
回答2	厳罰化	19	32.8%						
回答3	その他	10	17.2%						
	合計	58							

※割合は合計を母数にして算出しています

第2部 科学論文不正疑惑についての本学会の対応と年会ワークショップに関する設問

回答者数：43名

質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 十分だった	3	7.0%							
回答2 おおむね十分だった	14	32.6%							
回答3 あまり十分でなかった	4	9.3%							
回答4 十分でなかった	0	0.0%							
回答5 わからない	22	51.2%							
合計	43								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 やるべきである	18	41.9%							
回答2 ある程度はやるべきである	17	39.5%							
回答3 あまりやるべきでない	3	7.0%							
回答4 やるべきでない	2	4.7%							
回答5 わからない	3	7.0%							
合計	43								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 若手の倫理教育	22	23.7%							
回答2 PIの倫理教育	15	16.1%							
回答3 研究不正の背景	27	29.0%							
回答4 研究不正への対応策	26	28.0%							
回答5 その他	3	3.2%							
合計	93								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 学会の責任者	1	2.3%							
回答2 不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	22	51.2%							
回答3 トップジャーナルの編集者	5	11.6%							
回答4 研究費助成機関	7	16.3%							
回答5 その他	8	18.6%							
合計	43								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問1. あなたのポジションは？

回答者 番号	その他記述
	記述なし

質問2. 専門とされている研究分野についてお聞きます。〈複数回答可〉

回答者 番号	その他記述
	記述なし

質問9. 研究不正の調査はどのような機関が対応すればいいと考えますか？ <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	不正のあった研究内容の情報伝達の範囲に応じて担当機関を決定する(論文発表済みなら第三者、未公表・発表準備中なら当該機関など)
※	調査を担当する機関はその都度専門家(実験の出来るヒト)を当該機関が取りまとめる。追試に必要な予算措置(労務費、実験費用、機器の賃料など)は文科省がサポート。名ばかりの偉い先生は取りまとめ担当の1人のみで十分。
※	警察等の専門捜査機関(現在の警察にその能力があるとは思わないが)。「第三者の中立機関」は言葉の上ではあり得るが、現実には存在しえないと考える。
※	関連学会が随時設立する調査機関。
※	当初は当該機関で、最終判断は第三者機関で行うことが透明性を担保できると思います。

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	そう思う	本来ならそうあるべきだが、まず不正の告発が正当なものかどうかを判断する機関としてスタートした方が良い。
※	そう思う	第三者中立機関なら、不正をした人、あるいはグループをかばい立てたりしないため、調査が早く進むように感じます。
※	そう思う	不正という難しい問題に対応するには、利害関係がない外部中立期間による調査が必用だと思われるため
※	そう思う	当該機関の長が、不正をおこなった教授の実質的な後ろ盾となっていたケースが実際にあり、そのような場合は同じ機関に調査を依頼すること自体が公平ではない。
※	そう思う	研究不正を監視する機関の存在そのものが必要と思われるため。
※	そう思う	内輪の人間ではつっこんだ調査は100%無理だと思います。
※	おおむねそう思う	第三者の評価が最も厳しく、公平となりやすいから。世間の目から見て納得感が得やすい。
※	おおむねそう思う	同じ大学だと、しがらみがあるから。
※	おおむねそう思う	基本的に日本人は身内に甘い傾向にあるので、外部機関の方が適切だと思います。
※	おおむねそう思う	公平性が担保されるのと、対外的にもリーズナブルだと考えます。
※	あまりそう思わない	中立性と専門性の両立を図るのは難しいと思うから。
※	あまりそう思わない	研究の不正が起こりにく環境-個人のモラルの教育、過度な競争の抑制-を自主的に行えることが必要で、取り締まり機関ができると常に研究を監視している状態になるように感じます。
※	あまりそう思わない	ORIを設置、機能させるために莫大な費用が掛りそうだから。
※	そう思わない	余計な行政コストがかかり、もったいない。既存捜査機関の内局でよい。
※	そう思わない	完全に中立な機関を作ることはできないと思う
※	わからない	日本は問題を追及して責任の所在を明確にするという調査がとても苦手な国民性なので、事を荒立てないよううすぼんやりしたよくわからん報告書が出て終わりとか言う事はないだろうか。『校内からいじめをなくそう！』という課題に似ていると思う。大事なのはどんな肩書きの人に調整(調査)させるかではないような気がします。

質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	そう思う	専門家としての意見を取りまとめ、社会に報告する義務があると思う。不正により、多くの研究者が迷惑を被り、国は予算配分を適正に行えないなど影響は甚大。社会の期待を大きく裏切ることになる。
※	そう思う	分子生物学会が開催してきた捏造対策シンポジウムの講師に捏造事件の渦中の人物がいたことに対する責任認識が甘すぎる。 http://www.mbsj.jp/admins/ethics_and_edu/PNE/
※	ある程度そう思う	中立機関の設立にかかってくるが、新規の機関を設立することが困難ならば、既存の学会などが対応をすることで同等の機能を有するのではないかと。但し、学会はそれを目的として設立されたわけではなく、実施するとなると当然マンパワーや体制作りなど様々な課題を抱えることとなるので、現実的に可能かは十分に検討する必要があると思う。
※	ある程度そう思う	学会として多くの研究内容を国際的に開示している以上、不正があった場合に調査するのは必要と感じます。
※	ある程度そう思う	積極的ではなく、外部の中立機関の要請に応じて調査にかかわるのが望ましい。まずは研究不正を防止に協力しているという姿勢が研究不正の牽制になるのではないかと。
※	ある程度そう思う	研究の詳細を検証するには、専門性が必要だから。
※	ある程度そう思う	研究者の意識改革の面では学会が主体的に調査にかかわることには意義があるから。
※	ある程度そう思う	規模が大きな団体がリードする事には意味があると思います。
※	ある程度そう思う	当該機関の調査を受けて、最終判断にかかわる調査は必要だと思います。
※	ある程度そう思う	研究が不正であるか否かを判断できるのは、専門家でないとは出来ないから。
※	あまりそう思わない	学会が中立の立場を取れるのであれば問題ないと思われるが、わからない
※	あまりそう思わない	研究者同士の馴れ合い あるいは それを疑われる様な形になるのは好ましくないから
※	そう思わない	できないでしょ？
※	そう思わない	利害関係が生じるのでなるべく第三者機関であるべき
※	そう思わない	完全に中立的な判断ができないと思う
※	そう思わない	同上。日本分子生物学会も内輪の人間(組織)だと思います。
※	わからない	分子生物学会のコアメンバーはそれなりに信用していますが、実際問題、誰の時間をどう使う事になるのだろう…と考えると軽々に賛同しかねます。もちろん学会の所属メンバー(しかも不正についてのシンポやってたような人)から不正が出て学会が真摯に取り組まなくちゃと考えている姿勢には共感していますが。

質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？

回答者 番号	回答	選んだ理由
※	十分だった	○大○○研の例など、調査報告の遅れをうながす声明などを出されていたと思います。不透明な部分に学会から勧告したことは評価できると思います。
※	十分だった	大学や研究機関の名誉にもかかわることでありながら、積極的に情報公開をしたのは評価できる。
※	おおむね十分だった	不正を不正と認め、公表するという点では表沙汰になった機関は適切な対処であったと思う。公表するスピードなどに若干の課題が残るかもしれないが、むしろ問題は明るみになっていない不正であり、告発が握りつぶされた例もないとは言い切れないのではないか。
※	あまり十分でなかった	当事者の退職などでうやむやになっている。
※	あまり十分でなかった	身内の調査の範囲を超えることがない対応で、公表の内容が具体的ではない印象があります。また、調査のスピードが遅いように受け取られている感じがします。
※	十分でなかった	個人攻撃に終わり、本質に迫ったり、それによつての再発防止がなしえられなかった。
※	十分でなかった	不正をした研究者の処分だけで終わってしまい、効果的な対策が立てられていないと感じるから
※	十分でなかった	調査結果は全て開示すべき。それがされていないので、外部調査機関が必要と考えます。
※	十分でなかった	○大医学部の内容は納得出来ませんでした。
※	十分でなかった	結局、何が間違いで、何が不正で、何がその後の研究に、どのようなダメージを与えたのかははっきりしていないと思うから。
※	十分でなかった	多くの場合初めから、悪いものは悪いと決めつけているように感じる。責任の所在と実際に起こったことの区別はきちんと分けて公表されるべきと感じる。
※	わからない	どういう経緯でどういう結果になったのか詳細がわからないのでなんとも言えません。
※	わからない	どのような対応がおこなわれたかあまり伝えられていないように思われるから。

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	具体的な原因
※	個人の問題	研究者の思い込みで、データ等を公正に判断できていないところがある。また、足りないデータ等を再実験をしないで論文投稿してしまうなども問題かと思われる。
※	個人の問題	自身も研究機関にいますが、多くは研究者のモラルと感じます。ただ、科学研究費を取ってこなければならぬ公的研究機関では、ビッグデータがないと予算がとれない、などのプレッシャーが研究者のモラルを狂わせ、捏造に走らせるケースもあるのかもしれない。
※	個人の問題	どのような制度下でもこの問題は生じるでしょう。構造・制度も大事ですが、個人的な問題の方が大きいと思います。
※	個人の問題	不正をやるやらないはあくまでも個人の考えだと思います。
※	個人の問題	科学体制の構造的欠陥とどのようなものでしょうか？
※	構造の問題	どのような集団においても一定の割合で「ずる」をしたがる小集団がいることは自明の事実であり(蟻でさえもいる)、その人物を特定し、排除することは極めて困難である。防ぐためには構造的に不正が不可能な状況を作っていくしかなく、そのための教育などが日本には不足していると感じるから。
※	構造の問題	論文至上主義。他の業績指標はないのだろうか？
※	構造の問題	実績(論文や学会発表など)が研究者人生に直結しているから。また、周囲は見て見ぬ振りが大多数の場合、得になるから。
※	構造の問題	大きいのは構造の問題。科学というものとは特別で、少々不正があっても全体の価値は保たれ、無責任な行動が許されるという考えが許される風土があるのではないのか？
※	構造の問題	パワハラが一因であると思います。
※	構造の問題	結果を出すことに対する過剰なプレッシャーなど
※	その他	モラルの低下
※	個人の問題/構造の問題	研究者の功名心が悪い方向に出た。本来ならば研究者足り得ない者が研究を行っている。なにも道德教育をせよといっているのではないが、小学校からの教育を考えるべき。嘘をつかないのは人間として当然のこと。上司の手柄になる論文を作成する際には不正が生ずる危険性が多い。単に手が動く要員のほうがボスにとって使いやすいという状況は危険。若手に研究費を配分することで抑制できる。
※	個人の問題/構造の問題	どんな構造であろうと個人がしっかりしてれば起こらないという点では、完全に個人の問題なんですけどね。50年前のアカデミアと違って、チーム戦になってしまうと…
※	個人の問題/構造の問題	教授が実験の現場を離れ、デスクワークしかせず、生データや生画像や部下の実験操作を見ることが無いこと。及び、教授が機器の原理や測定限界などを理解しないまま部下に実験を命じ、おまけに自分の立てた仮説に適合した結果のみを尊ぶような状況を作ること。
※	個人の問題/構造の問題	強烈な成果主義と研究者の数に対する雇用不足が大きいのではないかとと思われる。。
※	個人の問題/構造の問題	雑務が増える中、任期内での成果が雇用と直結する(少なくともそう思われている)現状の体制に対して、個人の倫理観の閾値を越えてしまった結果だと考えているため。
※	個人の問題/構造の問題	研究者のモラルを超えて個人に不正を強いる程の過度の競争が特定の研究分野にあるように思います。

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	ケースバイケースだと思うので、どちらの問題であるとは言えないと思う。
※	組織の問題
※	両方

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか? <複数回答可>

回答者番号	回答	選んだ理由と具体的な対策案
※	教育	ばれないようにするには…と考えるか、やらないでおこう…と考えるかは教育、環境の賜物であると思うので、不正に関する教育は必要不可欠であると感じている。しかし、研究不正に関わる包括的な教育を大学で受けたことがない。受けたとしても非常に少ない時間でばつと終わらせるのが日本の現状である点に問題を感じている。特に大学研究者と話をしていると「学生気分」を引きずったままのような発言が多く、法令順守やコンプライアンスに対する意識の低さに時折愕然とする。この現状を打開するためにも「学生」のうちにしっかりと教育を受けさせるべきだと思う。
※	教育	研究とは、事実の基づいたデータを基にその後の研究の継続をするものであること、その中で事実の基づいたデータを基に論文を作成していくといったことを教育の中に盛り込んでいくことも必要かと思われる。
※	教育	ある程度の厳罰化は必要とは思いますが、やはり何よりも学生の頃からの教育が重要ではないかと思えます。データがでないからといって改ざんしたり、他人のデータを盗用したりということは許されるものではありません。ラボセミナーの段階から適切に指導していくことで、モラルが向上すると思えます。ときどき、その場しのぎでデータをごまかそうとする人がいるのも事実です。大変残念ですが、そういう人は大学あるいは大学院で適切な指導を受けてこなかったのだと思い、その人の所属していた研究室の指導力を疑わざるを得ません。企業側としても優秀かつモラルのある人材が必要です。
※	教育	上記のようにモラルの低下が最大の原因だと考えており、それを正すには教育しかないのではないであろう。教育は教員、学生、テクニシャン、研究に携わるも全ての人を対象にすべきである。厳罰化も不正を減らすための一石にはなると思うが、根本的解析にはつながらないと思われる。
※	教育	厳罰化しても不正はなくならないと思えます。キレイごとだと思いますがやっぱり不正はいけないという教育を地道にやっていくのが良いと思えます。
※	教育	社会の発展にいかにか科学が必要で、その責務を担う科学者はいかに重要な社会的役割を担っているのか教育することが必須と考えるから。
※	教育	嘘を報告しても何の得にもならないことに気づかないのだろうかと思うので、研究不正を行う人の考えが理解できない。研究で得た発見や成果は、人類や地球環境その他様々な場面で利用される等、研究が現在よりもより良くなることへの探究であると考えている。研究不正をする人は、嘘偽りの報告が他の関連する研究に悪影響を及ぼし、発展や解明の妨げになる可能性があることに気づくべき。気付かない人には教育が必要かもしれない。
※	教育	目立つ結果が価値があるという考え方が出てきてしまっているのので、本当の研究価値を伝える教育をしていただきたい。
※	その他	教育しても、研究者個人の受け取りかたで、簡単に不正がおきる。厳罰化しても、ポスドク、学生への締め付けが厳しくなるだけで、不正の告発が上がってこない。
※	その他	科学者の人口を減らして、もっとゆったり研究できるように時間を巻き戻す。競争主義ではなく孤高の科学者が多数生まれるような環境になれば、不正をしているような余裕がなくなる。
※	その他	連帯責任の仕組みでも作らない限り、誰も積極的に他人の研究の生データまで辿ろうなどとは考えません。非常に厳しいですが、仕方ない。
※	その他	不正が悪いことだということも、それに伴うリスクも周知されていると思うので、これ以上の教育や厳罰化にはあまり効果はないように感じる。リスクを承知でやむを得ず不正をしてしまう環境要因があると思う。
※	教育/厳罰化/その他	雇用に対する不安が倫理的な感覚を麻痺させていると思うので、モラルの向上と並んで安心して研究ができる環境構築はセットで考えられるべきだと思います。
※	教育/厳罰化	教育は絶対に必要。厳罰とは研究費の停止ではなく、大学等所属機関の責任において行える懲戒免職もしくは博士号のはく奪である。
※	教育/その他	研究不正がよくないことは十分周知のはず。厳罰化によって不正を防ぐことは可能ではあるが、現在の大学や研究機関の雇用システムでは研究者の職が不安定であることを変えないといけないと思われる。

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	過去の論文データに関して追試をする、別研究機関をつくる。
※	人減らし。
※	抜き打ち査察と倫理教育
※	降格人事の積極的導入。各学科の教授会に他学科の教員、もしくは事務が必ず1名参加する体制作り。当該研究者を推薦、もしくは表彰した研究者の科研費申請資格を1年間停止。
※	研究者の職、雇用を増やす。
※	安定した雇用体制の確立。
※	プレッシャーを少なくする。
※	環境の整備と研究結果を世に発表する前に不正を見つける身内でのチェック(日々のミーティングなどで細かく確認するなど)

質問15. 研究不正や研究倫理への対応に関してのご要望やご意見

回答者 番号	ご要望やご意見
※	私個人としては、研究論文等のデータ捏造などあってはならないことであると思っています。間違いはあっても故意にデータを作ることだけは科学者としては遣ってはいけない行為であると思っている。そうであるなら、即刻科学者を辞めるべきであると思う。
※	あまりに過剰に反応するとねたみ等に起因する的外れな告発で社会的にも混乱する。告発の正当性を判断する機関が必要。その活動には費用がかかるが、国が負担すべき。論文の価値を判断する難しさをもう一度学会、大学で再考する時期ではないか。
※	捏造や不正はあくまで許されざるものであるということを学会としてもしっかり啓蒙していくことは重要だと思います。
※	当面は企業で流行っている「コンプライアンス」の仕組みを取り入れるのがよい。一定の歯止めになる。しかしながら本質的な解決には至らず、弊害もあるので、今学会で企画されているような議論を続け、落とし所を見出すしかないだろう。
※	不正とか倫理というと個人と結び付けられがちだが、もっと社会や組織の損失とか、そういった側面から捉えてもよいのではないか。
※	とにかく日本は対応が甘いと思います。このような甘さは国際的には通用しないでしょう。どう処分するかは別として、問題が明らかになった後に、全体像がはつきることがほとんどなく、時間が経ってあいまいになることが多いのでは？まずは事実をきちんを公表・議論しないことには何も始まらないでしょう。
※	国民から研究者に自由と研究費が与えられるのは、それに等しい責任を果たし、かつ倫理を守ることを期待されているが故でしょうか？
※	虚栄心などで不正を行うのは言語道断だと思いますが、不安から不正に走ってしまうケースなどはさみしい事だと思います。日本のサイエンスの正しい発展には対策は必須ではないでしょうか。取り組みには全面的に賛成致します。

質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

回答者 番号	回答	選んだ理由やご意見
※	十分だった	分子生物学会が開催してきた捏造対策シンポジウムの講師に捏造事件の渦中の人物がいたことは、本人に対する警告目的で、あえて狙って依頼したとは思えず、学会幹部の深慮遠謀に脱帽しました。
※	おおむね十分だった	学会が研究不正の是正に直接関わることのできない現状において、情報開示や啓蒙活動などに積極的に取り組んでいたと思う。
※	おおむね十分だった	時間的にも権限的にも出来る事は限られている中で、精一杯対応していたと思う。〇〇さんに不正のシンポ任せてしまったところが減点1。
※	わからない	どのように対処しているのか、最近学会に参加していないので、広報誌などでは解らない。
※	わからない	研究という名の下に行われている全ての学会、個人、大学等が対象なので、本学会がどうこうということではない。
※	わからない	どれだけ要望書を送付する前と後で、変化したのか不明。
※	わからない	知りませんでした。
※	わからない	不勉強で活動内容を理解していなかったため。

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由やご意見
※	やるべきである	残念ながら今の日本には研究不正、研究倫理について学べる、議論できる場がない。一部の大学、研究機関にはあるが、全員がその大学、機関にいけるわけではない。さらに、研究不正は制度が整ってから…という悠長なことを言う暇も残念ながら今の日本には与えられていない。このような現状を踏まえると、長期的には根本的な解決策を練りつつ、短期的には「今」どこかに不正教育の「受け皿」が必要であり、それを学会が進んで引き受けてくれることは、非常に有意義でありがたい行動であると感じている。
※	やるべきである	参加できないが、ぜひ討論して内容を知らせてほしい。
※	やるべきである	学会の社会的責任を自覚すれば当然やるべき。研究発表のみしたいのであれば論文でどうぞ。
※	やるべきである	参加者が所属している各大学や研究機関で研究不正や研究倫理に関する教育が十分になされているか不明である中で、多くの研究者が参加する本学会が、本件について積極的な姿勢で取り組んでいることを示すためにも重要だと考える。特に分子生物学会で中心的な役割を担っていた著名な研究者が不正に関わっていた疑惑がある中で、本学会が積極的に実施する意義は大きいと思われる。
※	やるべきである	ある意味で社会との接点でもあり、避けては通れない話題。そもそもこれ以上学術発表の演題を増やさなくてよい。
※	やるべきである	学会がこうした問題を真剣に取り組むことで、今まで関心が無かった人にも、研究を取り巻く環境の問題も含めて研究活動だということを周知していくことが大切と考える。
※	やるべきである	若い研究者も参加するので、教育の場として、研究不正について取り上げるべき
※	やるべきである	「本学会は学術発表のみに専念し、研究不正対応等の企画は控えるべき」という意見を言われた方は、社会や国民からの視点を考えたことが無いのだと思います。例え形だけだとしても、自浄努力を見せることが重要だと思います。
※	やるべきである	不正を取り締まるという方向ではなく、不正はやめましょうという方向で進めるのが良いと思います。
※	やるべきである	不正対策のための研究者コミュニティを新たに立ち上げる余力を持つ研究者は少ないので、既存のコミュニティの中で知恵を集め議論することは対応としてよいと思う。
※	ある程度はやるべきである	Q15にも書きましたが、学会が啓蒙していくことで、捏造が減る部分もあると思います。当該学会は学生も多くの発表のチャンスがあります。常に学会では目を光らせているのだということを学生にも分かっていた方がいい機会だと思います。
※	ある程度はやるべきである	ある程度は学生の教育のためにも必要と思う。ただしどんなシンポをやるうとどんな組織やシステムで不正を防ごうとしても、人間の欲や不完全さには勝てない、ゼロにはできないだろうから、ほどほどで良いと思う。
※	ある程度はやるべきである	学会としての考え方や対応の仕方を議論することは重要と考えます。何も判断しないというのが問題を大きくすることになると懸念します。
※	ある程度はやるべきである	毎回やる必要はないと思うが、定期的には教育を兼ねて実施した方が良いと思う。
※	ある程度はやるべきである	調査結果を報告するようなものは必要。かくあるべしというような議論は特に必要なし。まとまらない。
※	わからない	この学会が不正を無くして、日本の分子生物学会をどのようにしたいのかによって変わるのでは。
※	わからない	これまでも同様のワークショップが存在していて、それが機能していなかったことが明らかになりました。もちろんそれは学会の背金ではありませんが、具体的に学会としてどう対応すべきかは非常に難しいと考えます。

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

回答者番号	回答	選んだ理由
※	若手の倫理教育	若手に限らず、研究者全員に対して、倫理教育をすべきである。私は知っているというヒトに限って意外と知らないこともあるのではないかと思う。
※	若手の倫理教育	研究者の意識、とりわけ染まっていない若手の意識が大切と思うから
※	研究不正の背景	研究不正の背景に関して、野次馬根性的な興味はあるが、悪いことに対して、みんなの前で、すべて見せるとは、考えられない。
※	その他	若手の教育は小学校から行う。文科省の範囲。学会ならば研究者として教育を受ける機会がもう無い教授以上を対象とするのが良い。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育/研究不正への対応策	年代を問わず、教育は必要不可欠だと思う。特に今まで教育を受ける機会のなかったPIには特に。また、不正が如何に意味のないものであるかということについてもしっかりと議論して欲しい。個の利益を追求した結果、科学界全体の利益を損なっている、という事実としっかりと向き合うべきである。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育	初期教育は大事だから。60定年間際のジジイの不正は絶対にシンポでは矯正できない
※	若手の倫理教育/研究不正への対応策	若手の教育により、未来は開けると思います。質の良い研究者を育てていくために避けられない重要事項と思います。対応策については、具体的なものがないため、たとえば明文化したものを作るなど、各界にて共通の何かを作るのは必須かと思っています。
※	PIの倫理教育/研究不正への対応策	PIがまともなら大概の研究不正はそもそも起きないと思いますが。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	本質に迫らないと、解決になりません。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	短時間で教育は難しいと考えます。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	最初から不正を意図して研究する人はいないと思うので、なぜその不正が生じることになったのかをはっきりさせることが原因特定に重要と思います。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	最初なので研究不正の現状、実態についての情報が欲しい。そのあとで教育という流れかと思う。

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	若手では無く、教授、学長など大物の教育が必要。
※	プレッシャーを少なくする

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

回答者番号	回答	選んだ理由
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	今回の学会には参加できないが、別途会員に聞いてみるのも良いかもしれない。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	調査報告について具体的なことが聞きたいと思います。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	「はいはい正論ね」と想像できそうな話なら十分知識として分かっている。どうせならたとえワイドショーっぽくなくてもリアルな調査報告が聞きたい。不正も「ばれなきゃいい思いが出来る」と思ってやるんだろうけど、絶対にバレて、しかも社会的にもすべてを失うことを思い知った方がいい。特に若い人。
※	研究費助成機関	スポンサーとして、研究の不正についてどのように考えているのかを知りたい。
※	その他	不正が周囲にどのような影響を与えているかを幅広く伝えるため
※	その他	解決には科学コミュニティ以外の力が必要だと感じています。
※	その他	責任を押し付け合う無様な泥仕合が見たいです。

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適切と思われる相手をお選びください。

回答者 番号	その他記述
※	どなたかわからないが、不正論文のためにこんな迷惑を受けたという方。学位がダメになった、研究費が無駄になったなど。募集してください。
※	警察や検察、税務署等の捜査機関の担当者
※	社会学など科学者ではなく、倫理のような個人的な是非を論じる人でもなく、社会として何故科学に不正があると問題なのか？を論じることができる人
※	学会の責任者、不正があった研究機関の調査責任者、トップジャーナルの編集者、研究費助成機関(文科省)の「全員で」公開討論させるべき！
※	不正を行ったとされる当事者。
※	実際に不正をやった人。

質問20. 第36回年会のワークショップの内容に関してのご要望やご意見

回答者 番号	ご要望やご意見
※	分子生物学会にのみ所属している人だけではないと思うので、1度いろいろな学会の対応等を聞いてみては、いかがなものかと思う。
※	単なる勘違いやデータ解析の誤りと異なり、研究不正は人為的に結果を作ることなので、研究者の資格が問われている。これまでは資格なしとしてコミュニティーからの追放(退職など)で済まされているが、社会的責任を考えるとより厳しい対応が必要と思う。今回は学会に参加できませんが、web site 等でのまとめを期待しています。
※	今年度は参加できるかどうかは分かりませんが、毎回参加した折には、様々なワークショップを楽しみにしております。最近、大学院に進み博士を取る学生が減っていると伺います。私もポスドク経験がありますので分かるのですが、雇用としての不安定な要素、博士号までもっているのに、給料のあまりの安さに失望する人も多く、その結果、博士課程まで進む人が減っているのではないかと思います。科学技術力の衰えにつながるのではないかと不安に思います。これからの日本の科学技術を見据えていくために、ポスドク問題については、学会サイドからも考えていただければと思います。
※	深夜早朝、学術発表と重ねるなど、現実に参加できないようなスケジュールリングは避けてください。会期中日の午後いっぱい使って納得がいくまで議論を尽くされてはいかがでしょう。
※	データの不正とは直接は関係無いが、論文などの執筆者や執筆順位が実状を反映していない。例えば、順位が変わったり、グループに属していただけて執筆者に名を連ねたり、企業の研究者で所属を大学などの研究機関として知らぬふりをして投稿したり、している人間がいる(立場が上の人の方が多い)。こういう小さな不正(?)でも博士号をとれるか、とれないかに関与し、それが人生を左右する。学会ではなく、大学機関はせめて博士論文の順位(貢献度)は調査し、責任を持つべき。
※	お忙しいところ企画お疲れ様です。
※	ジंकピリチオン大賞は今年もやってください！
※	匿名でも多くの現場の声を取り上げて欲しいです。実情を正確に把握する事で潜在的なリスクや問題の根深さを認識できるのではないのでしょうか。